

# 生年の才の伯都子

♣



あつと言ふ間に五十才をむかえた私。今まで人のためになにか少しでも役立つてきことがあるだろか・・・と考えさせる四日間の介助ボランティアの体験学習でした。

高齢化社会の中で多くの家庭介護の方がいらっしゃる。その手助けをする訪問看護婦さん、ホーム看護婦さん、ホームヘルパーさんのお仕事、家事援助や身体の介護、入浴専用車での入浴介助、本当に大変なことだと思います。

週何回かみえるヘルパーさんは心待ちにしている独り暮らしのお年寄りの方がヘルパーさんの差し出す手を自分の両手で無言でさすっている。私には「ありがとう、ありがとう」と言つているように思えました。胸の中が熱くなり涙を止めることができませんでした。

人は一人では生きていけない。誰かに自分の存在を認め欲しく、温かな言葉や、やさしさが欲しい。だから一緒に仲良く頑張ろうという意識が大切だと思いました。介護はやさしさだけではなく、本当にハードなお仕事だと実感しました。サービス協会の方とのお話の中で「少しも大変だと思わないし、きっとこの仕事が好きなんだと思うわ」との返事が返ってきました。思いやりと、人を慈しむ心を持つた方の集まりなんだな・・・と思わず感激。「よーし、私決めました。五十才の一年生がいたつていいじゃない。きっと泣いたり笑つたり失敗をするかもしねないけど、これから介護の技術を教えて頂いて、人と人との関わり合いの中で、私自身を成長させて頂こう。」心に優しさと慈しみを忘れずに地域の中で役立てたらと思います。この機会をつくつてくれさせた社協の方に心から感謝いたします。

● 第4回介助ボランティア体験学習

# あとがき

『介助ボランティア体験学習』を担当しましたが、多くの反省点が残りました。まず、

さて、がき

めてこの「介助ボランティア体験学習」を担当しましたが、多くの反省点が残りました。

サービス協会の各サービスを私自身が理解していくなかったということです。この事業はサービス協会のホームヘルパーや訪問看護婦に受講者が同行するかたちになつていいるので、協会職員との打ち合わせを、もつと早く時期にしつかりとしておく必要がありました。

## 今回初 めてこの 『介助ボ

また、もつと受講者とのコミュニケーションがとれたらと思いました。

次回からは地域福祉センタードで行っている各事業も体験できるよう計画したいと思つています。

全部とはいきませんでした  
が、受講者に同行して何件か  
のお宅訪問させていただきま

あるという状態で、知らない家庭で介助体験をするということは、受講者にとつてはシヨックに感じることがあると思します。しかし、ボランティア活動を今後やつていこうと思つている方には、この体験学習はとても直接的であり、近道ではないかと思います。

次回からは今回の反省を踏まえて、より充実したものにしてゆきたいと思つていま  
す。最後まで不慣れなままで終わつてしましましたが、ご協力頂いた方々に感謝いたし  
ます。ありがとうございます。

『こだま会』に入つてボランティア活動を始めています。たくさんの方の福祉に関する知識を取り入れてから現場を体験するのではなく、現在の自分が今まで、緊張し、不安も

後　　ボランティアグループ『こだま会』に入つてボランティア活動を始めています。

たくさんの福祉に関する知識を取り入れてから現場を体験するのではなく、現在の自分が今まで、緊張し、不安も

## 思いやりいっぱいV.O.I.4

### 第4回 介助ボランティア体験学習記念文集

発 行 平成6年1月

発行所 社会福祉法人三浦市社会福祉協議会  
番号 238-02

三浦市城山町6番6号

三浦市社会福祉会館内

電話 0468-82-1111 内線373・374

FAX 0468-81-2579